

KSK

発行 KSK 神奈川県障害者定期刊行物協会
〒222-0035 神奈川県横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター横浜ラポール3F 横浜市車椅子の会内

あゆみ会報

2021年 8月号 第168号

編集 湘南あゆみ会
〒254-0807 平塚市代官町21-4 SEA平塚ビル3F フレンズ湘南内
TEL/FAX 0463-24-0420
定価 50円（会員は年会費に含まれています）

報告

●7月定例会 家族交流会



7月6日（火）ひらつか市民活動センター会議室に於いて行いました。参加者12名

先ず、精神障害者に対する公共交通運賃割引制度の導入促進の指示が6月11日 赤羽国土交通大臣から出されたという報告がありました。私たちの長年の願いの実現が、これにより大きく前進すると期待されます。詳細は6月号参照

その後、それぞれの家族が抱えている問題が次々と出され、活発な交流の時となりました。

Aさん：息子の自立のために世帯分離をしようと障害福祉課の窓口に出かけた。がそこでは受付してくれず、平塚保健福祉事務所に行ってくれと言われた。納得がいかない。親亡き後の受け皿はどうなるのか、心配だ。

Bさん：娘は通院せず、服薬もせずに一人暮らしでマンションでひきこもっている。どんな生活をしているのか心配だが、ドアを開けてくれないので、毎日2食分を作ってドアの外に置いてくるようにしている。幸い次の日、なくなっているの食べてくれているようだ。いつか話ができる日が来ると信じて諦めないで頑張っている。

Cさん：息子は大学に入学したが3カ月でダウン。9年間に6回入院した。歌手や野球選手になる夢を持って頑張るが続かない。どうやって元気づけてあげたらよいか分からない。

Dさん：娘は人との関わりがうまくできないため変な人と見られてしまう。今は訪問看護を受け医者ともうまく行っている、などなど。



●県議会党及び県障害福祉課に要望活動

じんかれんでは、県議会自民党、公明党及び県障害福祉課に対し今年も要望書を提出し、説明を行いました。今回はコロナ禍ということもあり、じんかれん側の出席者、持ち時間等に制限がありましたが、精神障害者が置かれている状況を理解して頂くために心を込めて説明を行いました。

7月16日	自民党	出席議員	5名	30分
7月28日	公明党	〃	3名	40分
	〃	県障害福祉課	〃	3名 10分

要望内容

1. 重度障害者医療費助成制度を2級まで適用してください。
 - ・2級の人も殆どの方が就労できず、障害者年金を受けて、親と同居していること。
 - ・一般科にかかった場合、また入院した場合、3割負担となり医療費の負担が大きいこと。
2. バス運賃割引制度を精神障害者にも適用してください。
 - ・赤羽国交大臣から出された指示を早く実施するようにバス協会に働きかけてください。
3. 精神科救急医療体制の拡大と整備
 - ・医療機関が県東部に偏っており、具合の悪い当事者を連れて夜間に行くのは無理であること。
 - ・精神科救急の電話がなかなかつながらないこと。

また、県障害福祉課には次の事も要望しました。

- ・地域包括ケアシステムの早期実施。
 - ・80-50問題は深刻化しており、親亡き後の生活の場をしっかりと作って欲しいこと、など。
- なお、佐藤恭子課長から、今年度中に精神障害者の生活実態のアンケート調査を行う予定であるというお話がありました。

これからの予定とお知らせ

◆8月定例会 お休みとなります

◆9月定例会 SST勉強会

9月14日（火）13:30～16:30

ひらつか市民活動センターB会議室

高森先生による SST は当事者の心に寄り添うことにより、安心を与え、関係を良くすることに役立ちます。良かれと思ってやってきたことが反対だったということもあります。学んで前進しましょう。

コロナ感染予防のため、体調の悪い場合は参加を控えていただけますようお願いいたします。

◆10月定例会

平塚福祉会館まつりは 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が出されたため、急遽 3月に延期になりました。

絵画作品募集します !!

当事者の方、奮ってご応募下さい。

1人1点 未発表のもの
募集時期等については 後日
改めてお知らせいたします。



精神保健福祉ボランティアグループ

こんぺいとうのお知らせ

8月14日（土）13:30 お茶会 参加費 100円

8月21日（土）13:30 定例会 福祉会館 第3会議室

8月28日（土）13:30 お茶会 参加費 100円

9月11日（土）13:30 お茶会 参加費 100円

お茶会会場 いずれも中央公民館和室



「義務教育で精神疾患を教えて偏見をなくしてほしい！」署名活動を行うまで

月刊みんなねっと8月号に、オンライン署名サイト change.org で、「義務教育で精神疾患を教えて偏見をなくしてほしい」の署名活動を始めた森野民子さんの記事が載っていますのでご紹介します。

長男が17歳で統合失調症を発症し、2年ほど自分の無知と偏見に苦しみました。

発症は私の育て方が悪かったためと考え、周囲に話せないことによる孤立・孤独感がずっとありましたが、「息子が良くなるためには、自分が病気について正しく知ることが大切だ」と思い、学び考えました。そして統合失調症が「心の病気」ではなく「脳」という身体の一部の場所の病気であるということが理解できて、それまでの偏見もなくなりました。

原因不明の他の多くの病気のように精神疾患の原因も不明です。ストレスで胃炎になる人もいれば、不整脈が出る人もいるし、髪が抜ける人も血圧が上がる人もいます。たまたま息子は何かしらのからだの不具合が「脳」という最も解明の難しい精密な場所に出てしまっただけなのです。

案の定、私が入っている家族会には様々な母親がいますが、育て方の共通性は見出せませんでした。過保護・過干渉だからとか放任だったからとか、シングルだから？ 両親が不仲だから？ いいえ違います。そこに何かしらの共通項があれば、もしかしたら「育て方」が関係したかもしれませんが、まさに家族のかたちはいろいろでした

私は、病気を正しく知ることによって精神疾患に対する偏見がなくなりました。周囲の人にも息子の病気について話せるようになりました。「どうしてその病気になったの？」と聞かれたら「癌

が原因不明なのと同じで原因不明の病気だよ」と伝え、病気を知らない人には「糖尿病がインスリンという物質を自分でコントロールできないのと一緒に、脳内の伝達物質を自分でコントロールできなくなる病気だよ。脳は全ての身体の動きを司っているからね。治療法もしっかりとは確立されてないし難病だよ！」と話して、自分の息子が通院のために仕事を休むことへの理解を得ました。

「実はうちの甥っ子が…」「私の母がね…」など精神疾患の家族を抱える人たちが話してくれるようになりました。精神疾患は生涯で5人に1人になるといわれ、誰でもなり得る身近な病気ですから。偏見なく自由に周りに話すことで、私は孤独ではなくなりました。

私のような元々無知で偏見が強かったものでも、正しく学ぶことで偏見がなくなることを実感し、軽やかにのびのびと過ごすことができます。周囲からの温かい支援も得られます。とはいえ社会には精神疾患に対して根強い偏見を持っている人たちがいることも確かです。

どうすれば意識を変えて行くことができるのか？私は学生時代に養護教諭の勉強をしており、幼い頃からの教育の重要性について知っていたため、オンライン署名サイト change.org で「義務教育で精神疾患を教えて偏見をなくしてほしい」の署名活動を始めました。おかげさまで5万名を超える署名が集まり、3月に文科省へ署名提出に行ってきました。

精神疾患への偏見がなくなるまではまだまだかかるかもしれませんが、「親なきあとに、偏見のない時代」を残せたらなと思っています。



月刊誌「みんなねっと」購読のおすすめ

月刊誌みんなねっとは全国精神保健福祉会連合会が発行している家族向けの冊子です。

小さく薄い冊子ですが、精神疾患に関する情報が詰まっています。

8月号の内容は ・読者のページ みんなのわ

- ・特集 精神障害者スポーツ
- ・多事彩々 さようなら冷蔵庫さん
- ・みんなねっと相談室から 夫から離婚してくれ！といわれる
- ・子ども・きょうだい・配偶者・家族いろいろ
- ・連載 ひきこもる人と家族への支援から見えてくること、などなど、幅広い情報を家に居ながらにして得ることができます。

みんなねっとの活動は冊子の購入費で支えられています。一人でも多くの方が購入していただけますようお願いいたします。

定価 300円 年間 3600円

申込先 〒167-0054

東京都杉並区松庵 3-13-12

全国精神保健福祉会連合会

TEL03 - 5941 - 6345 FAX03 - 5941 - 6347

郵便振替 00130-0-338317

サロンあゆみ

コロナ禍はいつ収束するのか、まだその兆しが見えませんが、サロンあゆみはいつものように開催しています。7月16日のサロンには13人もの参加者があり、初めての方を囲んで活発な話し合いが行われました。いろいろな人の体験を聴くことは大変勉強になります。また、自分の悩みを真剣に聞いてくれる人がいるのは有難いことです。

毎月 第3金曜日 13:00~15:30

ひらつか市民活動センター会議室 参加費 100円
ご都合の良い時間帯にお出かけください。

9月17日 10月15日

投稿 「子どもの人権」

今から21年前、O小学校で起きた話です。

長男と3歳年下の次男はO小学校に入学しました。長男が1-2年の時、次男が1年の時の担任はM先生。次男が入学して間もなくクラスメイトの殆どの子が「M先生怖い。学校行きたくない」と怯えるようになりました。2学期早々、保護者多数の要望により校長、教頭、M先生が同席して保護者会が開かれました。私は何度も学校に足を運び見聞きした事柄を説明し、担任の威嚇、暴言で子どもたちの心が傷ついていることを話し、学校に子どもを守る対応を求めました。

すると突然、PTA役員と数人の保護者から「そんなことある筈がない。担任をつるし上げる気か。学校に意見するとは何事だ。この町には住めなくなるぞ」と機関銃のように罵声が私に向けて浴びせかけられました。ほくそ笑む教頭とM先生。怯えて目を伏せる多くの保護者達。学校とPTA役員が仲間を集めて“担任を否定する者は潰す”保護者会だったのです。いじめで自殺する若者の気持を身をもって私が知った瞬間でした。

精神的不調が続く私と子供たちを心配して仲間が連日連夜励ましてくれました。1か月後、この問題を公表し、子どもたちを救おうと仲間と行動を起こしました。私は校長に直訴し、学校全体の説明会を開催してもらい、出席可能な教員全員、100名以上の保護者、町議員、著名人等が参加しました。町教育委員、M先生は欠席でした。私はこの説明会で「社会では犯罪となるような行為が教室という密室では許されるのか。毎年繰り返されていた人権侵害を他の教員は誰も気づかなかったのか。耐え難い苦痛の中にいる子どもたちを早急に救う対応を」と訴えました。

この日を境に多くの人が私の訴えている意味が解り、妨害行為が激減し、支援者も増え、心から信頼できる仲間もできました。

同時期、長男のクラスメイトが3年前、M先生から受けた体罰、いじめ等を話し始めました。馬鹿馬鹿と呼ばれ続けたAさん。殴られて気を失い教室の床に1時間放置されたB君。何日も鼻血が止まらなかった程殴られたC君。給食で牛乳の早飲みを強要され、むせ

て吐くと「鯨の噴水」と笑いものにされて泣いていたD君。校長に助けを求めに行っても助けてもらえなかったEFG君などなど。子どもたちは口をそろえて「学校は先生がいじめる所と思っていた。もういじめられないと分かったので話すことができた」と。勇気ある子供の証言を教育関係者はどう受け止めたのでしょうか。

校長、教頭は冷たく、具体的な対応策や行動を示さない学校、教育委員会の態度に痺れを切らした私は、教育委員会にチームティーチング体制を依頼し、教室にもう一人の教師を導入することで、子どもたちを見守っていきました。それと同時に県教育委員会に子どもたちの証言録、学校・町教育委員会と保護者の協議録を提出し対応を求めました。後日届いた回答は「小学校低学年の子供たちの証言は、信憑性が低いので判定は出来ず、グレイであること。M先生は現状のまま3学期末迄継続し、以降研修させ改善が見られたら学校に配属する」というものでした。私はこの回答に、人権が軽視されている社会の現実を見せつけられ落胆しました。

◎何故、人権侵害の加害者・加担者が出現するのか考えてみました。

1. 基本的知識が乏しく、排他的。無意識に権力主義に加担、過激な集団行動をとる。倫理観、道徳心の欠如。
2. 教育機関は知識人は大勢いるがその知識を活かす行動力と想像力に欠ける。
3. 人権擁護委員会の機能が不全状態
4. 自分の知らない世界を受け入れられず、差別・偏見自分勝手な考え方となる。
5. 被害者の辛さ、不安、痛みを理解できない。

◎どうしたら加害者にならずにいられるか

1. 人権の正しい知識を身に付け無関心に関心に変える
 2. 倫理観、道徳心、感性、想像力を豊かに育てる
- 人はみな唯一無二の存在。自分にはない個性を理解し、全ての人が安心して生きていける環境を想像してみましよう！

豊かな想像力は人権尊重への道標（みちしるべ）

(T. K記)